

# CAST

二階堂	ガラ子	二十二歳。	大学生。	魔法使い	…
霧島	セル子	二十二歳。	大学生。	魔法は使えない	…
三岳	ノワ	十九歳。	大学生。	魔法使いの後輩	…
佐藤	グリ	二十六歳。	大学院生。	魔法使いの先輩	…
ルナ・スペキュラム・モリス		年齢不詳。	仮面の教授。	魔法使いの師匠	…
魔界へと誘うリゲル				悪魔	…

※魔法：「引き金」となる物品を持ち、魔力を持った言葉を唱えることで、力を発動する。

魔力を持った言葉は脚本上では太字で表記される。

## ○

学校の教室。遮蔽された窓。無造作に置かれた私物、食品。長年の占領の跡。ホワイトボードに何語かわかない文字と式の羅列、そして落書き。

怪しげなランプ。毒々しい液体。絶えず動き続ける金属の置物。魔本。光を反射するオーナメント。壁に貼られた呪符。床に敷かれた魔法陣。

5人の魔法使い。教室で各々にくつろいでいる。

用事があるのか、一人、また一人と教室から出ていく。

ガラ子が残る。本を開き、紙とペンで魔術の下準備をしている。

集中が途切れる。姿勢を正し、深呼吸をして、胸に手を当て

ガラ子 ノイト・エッグス・フレス・オッド・エンクレグ

私、二階堂ガラ子は世に比類なき魔法使いだ

血より与えられた魔力と、弛まない研鑽、行使できない魔法はない

そして、魔法は万能の術で、全ての可能性である

ならば、私に出来ない事はない

沈黙

ガラ子 大丈夫。魔法なんて簡単だ

暗転

## Ⅰ — 第1話 — 「テストなんて簡単だ。」

教室。遠くでチャイムの音になる。ガラ子はそのまま机にいる。

教室のドアが勢い良く開き、セル子、勢い良く入室。

45

セル子 大変だ。ガラ子。私、どうやらテストがやばいぞ。このままじゃ退学だ。  
ガラ子 おはよう、セル子。今ちょっと忙しいから後にしてくれない？  
セル子 それは出来ないな

ガラ子 私はこのあと直ぐ、残りの学生生活をかけた最後の特攻に行かなければいけない  
大変ね。具体的に何するの？

セル子 教授に土下座をかましに行く

私のようなうら若き乙女が突然本気の土下座をすれば、  
流石に教授といえども、動揺するだろう。そのスキを突く

ガラ子 莫迦ね。私達は魔法使いでしょ

相手の情に訴えるよりもっといい方法があるんじゃない

セル子 だけど、私は魔法が使えないぞ

ガラ子 私がやってあげるって言ってるの。で、何の授業の教授をアレすれば良いわけ？

セル子 その必要はない。それに忙しいんだろ

ガラ子 そのくらい簡単。貴方と違って優秀なの

セル子 だとしても必要ない。ガラ子、さては私の土下座を甘く見ているな

ガラ子 子供の頃から何度も見てれば、甘くも見えるわよ

というか、それなら貴方、何しに來たわけ

セル子 いや、いざとなったときのために、最後のお別れを言いに来た

これで退学になるうものなら、私以外に友達のいないガラ子に顔向けできない

ガラ子 失礼ね。貴方より友達多いわよ

セル子 では、さらば。愛してるよー。ガラ子

65

セル子、勢い良く教室から出ていく

ノワ、セル子と入れ違いに、ぶつかりそうに成りながらも入室

ノワ うわわっ！

ガラ子 まったく、莫迦なんだから

あ、おはよう、ノワちゃん

ノワ おはようございます。ガラ子先輩

セル子さんはあんなに慌ててどうされたんですか？

ガラ子 試験で悪い点とって、教授に土下座しに行くそうよ

ノワ なるほど、魔法の使えない方は大変なんですね

ガラ子 いや、そもそも真面目に勉強すれば良いだけの話じゃない？

ノワ そうですか？魔法でチョイチョイすれば余裕じゃないですか

あ、もしかして先輩はちゃんと勉強なさるんですか？

ガラ子 まあね

ノワ 流石です。偉大です。グレートですよ先輩

魔法も、勉強もおできになるなんて、尊敬に値します

ああ、そんな先輩のお力が私に1%でも、流れ込んで下されば幸いなのですがね

とおもってなりません

ガラ子 あはは…ありがとね…

教室のドアが勢い良く開き、セル子、勢い良く入室

セル子    なんとかなったよ。追試だつてさ

ガラ子    あら、良かったわね。なら早速勉強なさい

セル子    無理だね。さっぱりわからない

ガラ子    あら、残念、じゃあさようなら

ノワ    お世話になりました

セル子    まつてよ。友達でしょ！ねえねえねえ！

ガラ子    わかった。じゃあ、勉強に付き合っただけあげるわよ。で、いつなの？テストは？

セル子    三十分後だつて

沈黙

ノワ    それはもう無理ってことなんじゃないんですか？

セル子    違う。私が「試験の本番は超体調悪かったんすよ」言っただよ

そしたら「今回は特別に受けさせてやるが、公平を帰すために今すぐだ」だつてさ

ガラ子    なにが「私の土下座を甘くみるな」よ

結局誤魔化そうとした挙句に墓穴掘ってんじゃない

セル子    ああ、まさかこんなことになるとは…。

…でも、こうなった以上、今度こそ、本当に使うしかないんじゃないかな、魔法

ガラ子    誰が？

セル子    …君が

ガラ子    はいはい、結局そうなるんですね。良いですよ。わかりましたよ

使いますよ。使えば良いんですよ。簡単だもんね。魔法なんて超簡単

はいじゃあ、そこに正座して

セル子、魔法陣の中央に正座

ガラ子も向き合っ、正座

沈黙

ガラ子    そういえばセル子、あなた大学入る時、私に大見得切ってたわよね

セル子    覚えてないな

ガラ子    「高校では頼りっぱだったけど、

大学ではガラ子に頼らない！勉強も魔法も自力でがんばる」って

セル子    そんなこと言ってたっけ？

ガラ子    絶対言ってた。私記憶力も良いの

セル子    へー

ガラ子    なんだ、案外格好いいところあるじゃんって思ってたんだけど

結局こうなったか

沈黙

130

ガラ子 でも、私は全然、頼られるの、嫌じゃないから  
それが、人より魔法が使える私の義務だと思ってるから

セル子 …

ガラ子 教科書の内容、無理やり頭にぶち込むよ

セル子 わかった

ガラ子 即席だから、ちゃんとイメージしてね

思いの強さが

セル子 思いの強さが魔力の源なんでしょ、わかってるって

135

ガラ子、セル子の額に触れ

ガラ子 白い紙。赤い線。黒い指。赤い円。

ステット・ジータグ・レドロ・ネル・エンクラグ

彷徨い祈るものに導きを

140

沈黙

ガラ子 あれ、失敗した

ノワ え？先輩の魔法が失敗するんですか？

ガラ子 ごめんセル子、もう一回やる

セル子 いや、いいよ

これでわかった。私、やっぱり格好つけたみたい

ノワ 正気ですか？試験は三十分後ですよ

セル子 大丈夫。なんとかする、今までだってそうしてきた

魔法がなくなったら私は大丈夫

150

余韻

ガラ子 …で、どうするの？これから3人で楽しく、お別れ会でもする？

セル子 いや、そうじゃないでしょ。魔法じゃなくていいからさ、なんか考えない？

頭も良いんでしょ？

ノワ あー、でももう二十分しかありませんよ、なにもできなくないですか？

セル子 あーまずいますまずいますまずい、どうしようどうしよう。焦ってきた

160

教室のドアが勢い良く開き、グリ、勢い良く入室

グリ おはようみんな！おお！セル子どうしたんだ？テンパってるな

ノワ セル子さん学校やめるそうです

グリ そうか、でもお前、魔法使えないからな、俺達は痛くも痒くもないな！

セル子 ちよっと、グリさんホントに茶化さないでください

ねえどうしよう、ガラ子

ガラ子 普通に、誤っちゃえば良いんじゃないの？

165

170

グリ おっ、追試かなんか？俺が相談にのってやるよ  
セル子 4 回留年してるグリさん黙ってください

グリ そんな俺だからこそ、力に慣れると思うんだがな。気かせてくれよ  
セル子 だから、いま時間が無いんですよ

ノワ あと十五分くらいじゃないですか

セル子 あああ、ガラ子、魔法じゃなくていいから助けて

ガラ子 うーん、先生ならなんか良い案だしてくれるんじゃないの

セル子 やめて、今、モリス先生を呼ばないで、ややこしくなるから

あと、絶対面白がつてるでしょ

ガラ子 もう、呼んじやった

教室のドアが勢い良く開き、モリス、勢い良く入室

モリス 呼んだかね？

セ以外 おはようございまーす

モリス おはよう。諸君。どうしたんだい、セル子君、随分焦っているようだが

セル子 あああ…この後ヤバイ追試があるんですけど、全然わかんないです

でも、誰かの魔法には頼りたくないんです

私、格好はつけないけど、学校はやめたくないんです！

モリス よくわからないけど大変だね

それはもう、君が魔法を使うしかないんじゃないかな

セル子 知ってるでしょ、無理なんですよ

モリス 無理じゃない。君が無理だと思うから無理なんだ

逆に、出来ると思えば出来る！それが、私達魔法使いだろう！

セル子 は、はい！

ノワ あと十二分です

モリス 時間がないな。いいだろう。みんな集まってくれ、これより秘伝を授ける

5 人、円陣を組むように集まって、ひそひそ話

意外と簡単だったようで「なーんだそんなにかよ」と言った感じでバラける  
5 人、魔法陣上の所定の位置につく

モリス 魔力を持たぬ魔術師が魔法を遣うなど、世の理の外れしこと

まさに魔の道、これ魔道なり

諸君！我々はこれから悪魔を召喚し、その力を借りる！

ういーす！

モリス 全員の力が必要だ

いくら薄情な君達だっここでセル子くとサヨナラしたくはないだろう

諸君 ういーす

モリス さあ、心を一つに

沈黙

215

ガラ子 拡散せよ

セル子 浸透せよ

ノワ 比較せよ

グリ 改善せよ

モリス 上と下の下、右と左の左、赤と青の青、過去と今の今。

ノワ ルーラ・イントール・グリユーマ

グリ ノイト・エルト・インサイム

ガラ子 エリス・デルビス・オム・ナーヴァ

：エンクラグ

セル子 ネルレック

ノワ リオン

グリ スライグ

モリス サイローム！我らが愛しき困難な生命よ！

225

舞台、一端明るくなり、また闇に包まれる

闇の中、何者かがの足音をたて近づいてくる

リゲル、手持ちの明かりを付ける

230

暗い舞台に手持ちの明かり、セル子以外の時間は止まっている

235

リゲル やあ、あなたが僕のマスターだね

セル子 はあ、まあ確かに用があるのは私なので、そうだと思います

リゲル 初めまして、僕は、悪魔（手を差し出す）

セル子 初めまして。私は、セル子。霧島セル子です。（握手！）

リゲル ふーんいい名前だね。霧島セル子ね。なるほど

でもごめん、僕達悪魔は名乗っちゃいけない決まりがある

だから僕のこととは、あー、リゲル、魔界へと誘うリゲルと呼んでくれたまえ

セル子 じゃあ、リゲル。早速で悪いんだけど

リゲル 本当に早速だね

セル子 テストやばいんだわ。でも、私魔法使えないんだわ。なんとかなんない？

リゲル あー、だいたい何でもできるけど、けっこう料金かかるよ大丈夫？

セル子 え、お金ですか

リゲル いや、魂。君の

セル子 え、私追試ごときに魂かけなきゃいけないんですか

リゲル 僕もそういう用事で呼ばれたのは初めてなんだよ

セル子 えー、駄目じゃん。じゃ申し訳ないんですけど、帰ってもらっても

リゲル いや、僕もせっかくなから、

普段はやらないんだけど、僕ほら悪魔だから

一応、悪いことなら、全然代償なくてもできる

セル子 はい

リゲル だから、例えば、テストなんでしょ

じゃあ、あのちよっと勉強出来る風の女の子と君の

250

245

240

255

セル子 外見だけを入れ替えるとか、1日だけ、そういう悪戯どう？  
リゲル いいですね。それ  
じゃあ決まり

セル子 代償はさ、僕しばらくここいるつもりだから、今度何か美味しいもの奢ってよ  
全然おつけーすよ  
リゲル はい、じゃあ一回分ね（セル子に向けて指をならす）  
セル子 …フ（力がみなぎる）

260

セル子が、ガラ子に触れると、ガラ子の時間が動き出す

265

ガラ子 あら、成功したみたいね。…何がおかしいの？  
セル子 ガラ子。悪いけど、私の身代わりになってもらうから  
ガラ子 はあん？何？結局私に頼るわけ？それで良いの？  
セル子 良い！良いんだよ！だってこれはガラ子の魔法に頼ったわけでもなければ、  
ましてや、勉強を教えてもらったわけでもない！  
だからこれははセーフ、セーフなんだよ

270

ガラ子 心底呆れるわー  
セル子 うるさいうるさい観念しなさいい！  
いくよ

275

短い深呼吸  
ガラ子を指差して

セル子 ガランス・トランス・クロス・トレース・セルリアン！  
貴方が私で私が貴方！テストよろしくう！ハッハッハッハ！（とにかく高笑い）

みんなの時間が動き出す。

280

グリ うわ、なんだおまえ  
リゲル 悪魔です

285

グリ おう（握手！）  
モリス 初めまして、悪魔くん。私は十四代目ルナ・スペキュラム・モリス  
君と話したいことがたくさんある。一杯飲みに行かないか  
リゲル あーどもども、行きましよ行きましよ  
セル子 わたしもいきますわ  
モリス おお、ガラ子くん、いいだろう、きたまえ  
グリ セル子オ！どうやら一見落着っぽいな！

290

セル子 俺たちは行くから、試験がんばれや！  
セル子さん、あと五分ですよ。  
速く行ったほうが良いんじゃないですか、莫迦なんじゃないですか？

ガラ子を残して、みんなぞろぞろ出ていく

ガラ子

本当、莫迦なセル子、私が追試とやらをサボちゃったらそれまでじゃない  
フッフッフ、ハッハッハ、ハハハハハハハハハハ(三段笑い)

良いじゃない。やってやろうじゃないの。何の試験か知らないけど、関係ないわ

簡易詠唱

ラッツ・マニット・エト・ドロウ

時よ止まれ

テストなんて簡単だ！

暗転

第一話 END

## 2 —第2話—「先輩なんて簡単だ。」

教室。ガラ子が疲れて伸びて意識を失っている

教室のドアが静かに開き、ノワ、静かに入室

眠っているガラ子に気付く

ノワ

月の砂。金の羊。甘いミルクの入った紅茶

ピールス・ドグ・ドナ・カードット・レト・リオン

軋み解ける身体に祝福を

静寂

ガラ子、目をさます

ガラ子

ん？、身体軽。あ、ノワちゃん

ノワ

おはようございます。先輩。

ガラ子

ああ、おはよ。ごめん、寝ちゃってた。もしかして待たせてた？

ノワ

いいえ、丁度今来たところで

ガラ子

それは良かったわ。で、私に用事って何？

ノワ

あの、実は一つお願いがあるのですが

ガラ子

何よ改まって

ノワ

ガラ子先輩、私に先輩流の魔法の使い方を教えて頂けませんか？

ガラ子

：なるほどね、そうきたか

ノワ

やはりダメですか？

ガラ子

だめではないけれど

ちなみに、呪文ならモリス先生に聞いた方が早いわよ

結局私も習ったまんまだから、大して変わらないと思う

ノワ

んー、私も別に、もう呪文は必要ないですね

それに、呪文なんて極論魔法をイメージする助けでしかないじゃないですか

ガラ子

たしかにね



ノワ ガラ子先輩。単刀直入に言わせて頂けば、私がお聞きしたいのは先輩の魔法の源。魔力についてなんです。

ガラ子 ふーん、続けて

ノワ ガラ子先輩。先輩の魔法は、はっきり言って異様です。単純な出力。実行可能な事象の多さ。1日に唱えられる回数。

どれも私達とは比べ物になりません。

私、たまにガラ子先輩の魔力は無限なんじゃないかと思っていますしかし、そんな筈はありません。魔法使いも人間なので、限界はあるはずですガラ子先輩、いったいどのような修行をして、

ガラ子 そんなにも膨大な魔力を手に入れられたのですか？

ガラ子 うーん、こればかりはね

ノワ お願いします。悪いことには使いません。ヒントでも良いのです

ガラ子 私も魔法使いとして生まれた以上、この力の真髄に近づきたいのです違うの。私にも分からないのよ

ノワ だから、私にとってがこれが当たり前で、特に何かをしてもいない

ノワ やはり、才能ですか

ガラ子 そうかもしれない。でも一つ言えることはあって

間

ガラ子 ノワちゃん、魔法っていうのは気合なのよ

ノワ 気合？気合ですか

ガラ子 そう、気合。思いの強さが魔法の強さなの  
少なくとも私にとってはね

ノワ 私、魔法を使いたいていう気持ちだけなら誰にも負けない自身がある  
なるほど。それは以前から聞いていましたし

私も決して、真剣でないわけではないのですが、そうなのです

ガラ子 ごめんね。力になれなくて

ノワ いえ、大丈夫です

しかし困りました。実が私は魔法を遣うと直ぐに疲れてしまうのです  
なので、気合となると、あまり向いていないのかもしれない

ガラ子 あー、だったら私よりグリさんに聞いたら

ノワ あの人もう、三十近いし、魔力も少ないけど、それなりに魔法は使えるじゃない

ガラ子 ああ、やっぱり

ノワ てか、むしろ嫌いなんですよね。一発ぶん殴りたいとも思っています

ガラ子 そんなに？

ノワ 魔法使いの恥さらしですよ

魔法がつかえないならまだしも、それなりに使えるというのに  
あの体たらくではあまりにも情けないです

教室のドアが非常に勢い良く開き、グリ、勢い良く入室

続いてセル子も入室

グリ おいっす！

セル子 おいっす！

ガラ子 あら、噂をすればなんとやら

何？莫迦二人がタッグを組んでどうしたの？

セル子 ちょっといきなりひどくない？！

グリ かまわんさ、セル子後輩。男にとってバカは褒め言葉。

釣りバカ、三バカ、野球バカ、俺は「魔法バカ」だ！

間

セル子 わたし女です

ガラ子 はいはい。バカで良かったですね。で、グリさん私に何のようですか

グリ ガラ子後輩。今日こそ、君の魔法より、

先輩たる俺の魔法の方が優れていることを証明してみせる

ガラ子 はあ、いったいそれに何の意味がお有りで？いくら頑張ったところで

貴方の魔力がわたしよりも圧倒的に低い事実は変わりませんよ

グリ 意味ならあるさ、これはプライドの問題だ

何度でもいうぞ、ガラ子、「魔法はテクニク」だ。俺はそう信じてならない

ガラ子 何度でも否定しますよ。グリさん。「魔法はパワー」です

そもそも、人間が技術で実現できない願いを叶えるのが、魔法です

魔法というのは本質的に純粹なパワーなんです

グリ 浅いな。物事を多面的に見ることができないからだ。

人間の技術の裏には、必ずその技術を成立させたいという願いがある

そう、人類はずっと、パワーとテクニクを組み合わせて発展してきた

魔法が純粹なパワーなら、それを扱う人間にはテクニクが求められるはずだ

ガラ子 ならば結局どちらがより重要なんですか？

曖昧な結論ですね。成績の悪い人はこれだから困ります。

魔法 イズパワーこれだけがたった一つのシンプルな答えなんです

さあ、教えてあげますよ。世界は貴方が思っているよりも、簡単だということをね

グリ ならば俺も教えてやろう。この世にシンプルな答えなど無い

白黒つけない、灰色の結論こそがこの世界の真実なのだと

そして、俺は先輩としての威厳を取り戻す！

両者、睨み合う

教室のドアが開き、モリス、リゲル、入室

モリス おはよう。諸君。随分盛り上がりしているね。私達も仲間に入れてくれないかな

リゲル どーも、お邪魔しています。モリス博士あれは何をやっているんですか

モリス 悪魔くん、彼らは、これから「魔法使いのケンカ」を行おうとしているんだ

425

リゲル なるほどケンカですか、ルールとかは有るんですか  
モリス ないよ。これはケンカだからね。同時に唱えて、単純に速くて強いほうが勝つ

ガラ子 抜けよ三流魔法使い

グリ では遠慮なく、一流魔法使い様

一本目、同時に、ガラ子、ワンテンポ遅れて、最後は追いつく

グリ 固まれ

レド・ウォース・レフ・イルブ・スライグ

ガラ子 沈め

トリット・ニラ・サイフ・パウズ・エンクレグ

何も起こらない

435

リゲル 何も起こりませんね

モリス 魔法が相殺したんだね

ガラ子 一本目は耐えたようですね。ですが、二本目はどうでしょうかね？

グリ ……フフフ。まだまだよ

440

二本目、同時に、ガラ子、ワンテンポ遅れて、最後は追いつく

グリ 溶解せよ

ネトロ・レグニフ・レフ・エクマ・スライグ

ガラ子 変化せよ

トルカ・レグニフ・サイフ・エグナク・エンクレグ

445

グリ、膝をつく

450

リゲル 勝負ありましたか

モリス いや、まだだ

グリ あぶないあぶない、流石ガラ子後輩だ

ガラ子 もう、やめます？降参するなら今の内ですよ

グリ 遊びは終わりだ。この勝負勝たせてもらうぞ

セル子 オ！

セル子 はいはい。ガラ子ー。これ何かな？

455

セル子、テストの答案用紙を取り出す

460

ガラ子 気を引こうたって無駄よ

セル子 わかってるって、でもおかしいんだよ

これ私のテストなんだけども、普通に七割あってるんだよね

465

ガラ子

で、よく考えたらさ。これこないだ私がガラ子に押し付けたテストなのよ

ガラ子

だとしたら面白いよね。ガラ子もいきなりだと三割は間違えるんだ

意外と可愛いところあるじゃんて思うよ

ガラ子 違うわよ。それは貴方が全問正解だと不自然だからわざわざ：

グリ もらったア！

逆巻き渦巻き溢れよ

ロークル・フォエルテック・リフ・レフ・レドロ・ゴアスライグ

地獄の釜よ開け

ガラ子

やば！

475

ガラ子。気持ち悪そうにうずくまる

グリ どうだい。俺の二日酔い魔法のお味は？

まるで前の晩に二升開けたみたいにな効くだろ

ガラ子 あら、あいにく、お酒には弱くないので、二日酔いは初体験よ

貴重な体験をありがと

グリ そうか、じゃあゆつくり楽しんでくれ

セル子 ごめんねガラ子。

私グリさんにはいっぱい過去問もらってるからさ、逆らえないんだよ

グリ 見たか、これが俺の「テクニク」だ

ガラ子

本当最低

グリ ほら。限界なんだから、無理しないで行けよ

485

ガラ子、走って教室から出ていく

490

セル子 うわあああ、ごめん！ガラ子ごめんよ！

セル子も追って出ていく

495

モリス セル子くんだけでは心もとないな、私も失礼するよ

モリスも出ていく

グリ、ノワ、リゲルだけが残る

500

グリ 勝った…俺は買ったんだ…

苦節三年…奴と始めて遭遇した時から、この日を待ち続けた

ククク、ノワ後輩、俺の勇姿、その目に焼き付けてくれたかな

ノワ 軽蔑します。本当に

グリ 本当に？、本当にそれで良いのか？ここで俺を軽蔑するのは簡単だが何かを学び取ったって良いだろ

ノワ あなたから学ぶことなど、何一つありません  
 グリ 強情な後輩だ。先輩として大事なことを教えてやろう  
 ノワ まず、俺も君も、いくら普通に努力したところで、ガラ子には勝てんぞ  
 そんなことないです

私、ガラ子先輩には勝てなくても、並び立つくらいにはなります…

グリ いや無理だろ。あいつの魔力は異常だ。誰も追いつけない。冷静に考えてな  
 ノワ それでもいつかは、必ず追いついてみせます

グリ いつか？いつかだと？

いったいお前は何時まで意味のない努力を続けるつもりだ？

俺は御免だぜ。俺は努力意外のやり方でガラ子を超える

ノワ そうですか。それがあの汚いやり方なんですね。あなたはそれで良いんですか？

グリ 良くはねえ

だが、ああしなければ、あそこに蹲っているのは俺だった

ノワ じゃあもうケンカなんてしなければいいじゃないですか

グリ それは出来ない、俺はガラ子に勝たなければいけない

ノワ 何ですか

グリ それは俺が、ガラ子の先輩だからだ！

沈黙

グリ そしてノワ、お前の先輩だからだ

ガラ子に付いていくのはやめろ、お前の道を行け、

お前はガラ子にはなれないし、なる必要もない。この通り、奴も完璧じゃない

沈黙

グリ そしてそしてなにより！俺が魔法使いだからだ

歪でも良い、汚くても良い、俺は俺に出来る全てのことをする。全てだ

それが俺の、魔法なんだぜ

沈黙

ノワ なるほど。一寸の虫にも五分の魂。

グリさんもそれなりに一生懸命生きていたのですね

グリ どうだ？ちよつとは俺を尊敬する気になったか？

ノワ 嫌です。

グリ ああ？

ノワ 嫌です。私はそれでも、ガラ子さんを目指します

グリ 本当に強情だな。それに何の意味がある

ノワ 意味なら有ります。完璧じゃなくても、届かないかもしれないけども

強くて優しいガラ子先輩が私は好きなんです。だから、頑張れるんです。

それに私、気合があるんで、ガラ子さんに付いていくためなら何でもしますよ

550

リゲル 何でもする？  
ノワ はい？  
リゲル 今、何でもするっていった？  
ノワ いいましたよ  
リゲル じゃあ、何かしようよ

リゲル、前に躍り出る

555

リゲル ノワちゃんとやら、君、あのガラ子ちゃんなみの魔力が欲しいんだよね？  
ノワ まあ

リゲル じゃあ、僕があげるよ。君の魂と引き換えに  
ノワ 嫌です。魂なくなったら意味ありませんから  
リゲル そうか、じゃあ、こういうのどうだろう

僕ほら、悪魔だからさ、悪いことの手伝いなら出来る

例えばこの、目の前の嫌いな先輩から、魔力とっちゃうとかどう？

ノワ 莫迦言わないでください。そんな酷いことするわけないじゃないですか

グリ いや、ありだろ

ノワ はい？

565

グリ 冷静に考えろ、ノワ後輩。これは君がガラ子並の魔力を得る最後のチャンスだ  
だって、君は本気でガラ子と並び立ちたいんだろ

ノワ …はい、そうです

グリ なら、何故迷う。こんなチャンスはないだろ

ノワ 正気ですか？グリさん、魔法使えなくなってもいいんですか

グリ 当然リスクはあるさ。例えばほら、実は俺もその話、一枚噛ませてほしいとか

リゲル フフフ

グリ おい悪魔、もしノワがその話断ったら、俺に魔力をくれよ

そのクソ生意気な後輩の魔力と控えにさ

そりゃ俺だって欲しいさ、ガラ子なみの魔力、手に入るもんならな

リゲル いいよ。これは僕の仕事みたいなもんだから、断る理由はない

でも、いいのかい？こういう場合、交渉の権利は対等に有って良いと思うんだけど  
そうだなあ。じゃあ俺とノワで勝負して勝った方が先つてのはどうだ？

リゲル わかった

ノワ ちよつと勝手に決めないでください

リゲル いいや。もうこの話は決まった

だって君が乗らなきゃ、魔力を取られるのは君なんだぜ

さあ、邪魔が入る前に、どちらか先か決めてしまってください

グリとノワ、向かい合って位置につく

585

ノワ グリ先輩本当に良いんですね。私勝ちますよ

グリ それは俺のセリフだ。だが、俺はどちらが残っても後悔はしない

ノワ そうですね。だって私も貴方も

590

グリ 魔法に掛ける気持ちは  
ノワ 本物ですからね！  
グリ 本物だからなあ！

一本目、同時に、グリ、ワンテンポ遅れて、最後は追いつく

595

ノワ 駆けよ

ラツツ・ドール・ミフ・トツシュ・リオン

グリ 埋まれ

リウフ・ドール・レフ・イルブ・スライグ

600

何も起こらない。グリ、疲れてくる。

リゲル 相殺ね

グリ まだまだア！

ノワ はい！

605

二本目、同時に、グリ、ワンテンポ遅れて、最後は追いつく

ノワ 転輪せよ

リオット・テム・エルブ・ラク・リオン

グリ 染色せよ

ウォウリイ・ライフ・レフ・ラク・スライグ

610

グリ、崩れ落ちるが何とか起き上がる。

615

グリ ヘヘヘ、やっぱお前すげえよ、流石ガラ子の後輩だぜ（かなり弱っている）

ノワ 先輩、次でキメますよ

グリ ほんとこいやア！

620

三本目、ガラ子が乱入する

ガラ子 あんたたち！なにやってるの！

ノワ 邪魔しないでください！これは私とグリ先輩の問題なんです

グリ ガラ子、手をだしたら承知しねえからな、そこで大人しく見とけ

リゲル 彼らはいま、お互いの誇りと未来をかけて戦っているのです

もちろん合意の上でね。彼らの選択を邪魔してはいけませんよ

ガラ子 はーん、そういうこと。なるほどね。だいたい判ったわ

莫迦ね。ほんとみんなバカ。魔力なんてあってもいいことないのに

ノワ …貴方に何が分かるんですか！

貴方と違って、私やグリさんは中途半端なんですよ

私達は魔法使いで、何でも願いを叶える力を持っているはずなのに

630

625

635

意外と簡単に限界が来るんです  
そしてそれだけは願っても願っても変わらないんです  
そんなの当たり前じゃない、私達は人間なのよ

でも貴方は違います！ガラ子先輩の魔法には本当に限界がない

正直、悔しいです。でも、だからこそ私は、貴方に憧れてしまうんです！

ガラ子  
：莫迦ね

ノワ  
へ？

ガラ子  
あなたじゃ無理。私には永遠に追いつけない

だから、私の周りをブンブン飛ぶのはやめて、自分で生きていつて。ウザいのよ  
ならば。邪魔をしないでください

ガラ子  
それも無理、気に食わないのよね。こういうやり方

ノワ  
ガラ子さん、ちょっと魔法が使えるからっていい気にませんか？ブッ飛ばしますよ

ガラ子  
雑魚が、生意気な口は私に勝ってから聞きなさい

ノワ  
そうさせてもらいます！。いくら先輩が強くて、今回だけは負けません

私、魔法が上手になりたい気持ちだけなら、貴方よりずっとずっと強いですから！  
ガラ子  
よく言ったぞノワ！

ガラ子、勢いよく立ち上がる

650

ノワ  
え？

ガラ子  
見せてやろうぜ。あいつに、「俺たちの」魔法をな

ノワ  
ガラさん、あなたもう：

ガラ子  
うるせえー！！

ガラ子！よく聞け、思いの強さが魔法の強さだ！そして、俺達は魔法使いだ！  
行くぞ！

655

三本目 ガラ子 vs グリ and ノワ

ガラ子  
簡易詠唱

レリック・ニーク・エト・トッド

時を分ける

時間を二分分したわ、強さで私に勝つんでしょ、好きに呪文を唱えなさい

ガラ子  
なめやがって：合わせるぞ！

ノワ  
はい！

二人  
ルナスペキュラム式共鳴魔術！

ノワ  
銀の月

ガラ子  
黒い泥

ノワ  
凍てつき

ガラ子  
燃え上がり

二人  
循環するアリア

ノワ  
星は走り、人は還る、膨張し湾曲し消滅するものに問う

ガラ子  
穢れよ満ち、大地に蔓れ、増殖し崩壊し進化するものに問う

670

665

660



675

ムジガ・オルキム・ドルフ・リフ・イルマグニス・ゴアスライグ  
ノワ スパイル・レイル・トラッツ・イクス・イルマエリス・リヒトリオン  
グリ 俺の地獄で叫び  
ノワ 私の楽園で眠れ。繰り返す開闢と終焉の悪夢へようこそ

ゆっくりと暗転しかかる、が、しない

680

ガラ子 朱の棘。真紅の血潮。爆散し溶融する極熱のプロミネンス  
街は焼け、海は枯れ、人は去り、星は凝縮し重い渦を巻く  
圧縮し貫通し衝突し変形し拡散し収束し破壊するものに命ず  
二重詠唱

685

エル・マルク・セルブ・ポルベッド・ネイブ  
・リフ・レフ・サイフ・ニヒト・ウォル・トリクサー・エンクレグ・エンクレグ  
万象一切灰燼滅却魔力溶解無限希釈！

なにも、おこらない

静寂

690

グリが倒れ意識を失う、ノワがへたりこむ

ノワ なんて…何も起こらない

695

リゲルが苦しみだす

リゲル …貴様、何をした？

ガラ子 あら、ノワ達の魔法をキャンセルするついでに、

この辺りの魔力を散らして極度に薄めてみたのだけど、貴方には結構効くのね

リゲル …そりゃそうさ、僕は魔力そのものだからね

ガラ子 ごめんなさい。でもこうでもしないと、あの子は諦めてくれないだろうから

リゲル 勘弁してくれよ

ノワ はは、はははははは

めちゃくちゃだ、意味がわからない。ダメだ、やっぱガラ子さんには勝てないや  
というか、そんなイメージじゃない

ガラ子 これでわかったでしょ。私と張り合ってもしょうがないのよ

ノワ はい。なんかもう色々どうでもよくなりました

でも、そんなに悪い気分じゃないです

ノワとモリスが勢い良く戻ってくる

710

セル子 うわ！これどうしたの？

モリス 悪魔くん。死にかけているね。悪魔も死ぬんだね

リゲル 博士、助けてください

モリス いいだろう

715

モリス、リゲルに駆け寄り起こす

リゲル ありがとうございます

モリス 歩けるかい？

リゲル なんとか

モリス よし、では、後は頼んだよ

720

モリス、リゲルをつれて出ていく

セル子 で、何があつたの？

ガラ子 私が戻ってきたら

725

ノワ (すぐ遮って)ちよつと、大ゲンカしただけです。ガラ子さんと私とグリ先輩でさ、グリ先輩、いいかげん起きてください

グリ、動かない

730

ノワ 香る草。白い花

ミフ・ニュート・フォグ・リオン

疲れた身体にこの一本！

735

ノワがグリの背中を勢い良く叩くと、グリが起きる

グリ ふお！うおお、おう。ノワ後輩、どうやら我々は負けたようだな

ノワ そうですね

グリ そうか！じゃあ今日は一つ、残念会でもやるか

ノワ グリ先輩のおごりですか？

グリ おお、そうだ。そうだよー。

ノワ やったー。では行きましょう。善は急げです

グリ わかった、わかった。でもちよとふらふらするからさ、先行って店探しといってくれ

ノワ 了解です

…ガラ子先輩、色々とありがとうございます。(背を向けて立ち止まって)

…では、また明日！(振り返って)

ガラ子 また明日

750

ノワ、勢い良く出ていく、グリもフラフラとあとを追う

グリ (背を向けて)ガラ子。ありがとな。助かったぜ

ガラ子 どうも。ちなみに助かったのはだれなのかしら

グリ ……(振り返って)俺に決まってるだろ！じゃあな！

755

グリ、勢い良く出ていく

グリがさって、ガラ子もへたり込む

760

セル子    なんか、大変だったんだね  
ガラ子    そうね。もうヘトヘト  
セル子    大丈夫？  
ガラ子    大・丈・夫じゃないっ、でも大丈夫  
          はあ。ちょっと外の空気も吸いたいし飲み物買ってくるわ  
セル子    おう、いつてら

765

ガラ子、扉から出かかって

770

ガラ子    セル子  
セル子    なに？  
ガラ子    先輩ってなかなか大変ね  
セル子    そう？きつと普通にしてれば簡単だよ

ガラ子が出ていき、扉がしまり、暗転  
第二話    END

775

### 3    — 第3話 — 「人生なんて簡単だ。」

教室。セル子が適当にくつろいでスマホでゲームをしている。  
教室のドアが勢い良く開き、モリス、勢い良く入室

780

モリス    おはよう。諸君  
セル子    おはようす  
モリス    珍しい。今日はセル子くんだけか  
セル子    そうみたいですなー  
モリス    なるほど、それは都合がいいな  
セル子    そりゃよかったっす

785

沈黙

部屋が暗くなる、モリスとセル子の周りだけが明るい

790

モリス    セル子君。君、人生について考えたことは有るかい？  
セル子    はあなんすか急に  
モリス    人生だよ。人生。あ、「人の一生」という意味だよ  
セル子    いや、わかってますよ。だから、なんでいきなり人生なんすか？  
モリス    いきなり？なるほど時間の問題なのか？  
          ん？もしかして君人生について考えたこと無い？  
セル子    いやいや、そりゃありますよ。でもいつもってわけじゃないですかね  
モリス    そうか。私はいつも人生について考えている

795

セル子 そうつつすか：

沈黙

モリス セル子君知ってるかい、私の魔術師としての最大目標は  
ウハウハな人生を送ることなのだよ

セル子 はあ、ウハウハつつすか

モリス そう、ウハウハだ

セル子 えー、じゃあそのウハウハって、具体的にどんな感じで？

モリス それはわからない。私はいつもその答えを探している。ウハウハ：

気まずい沈黙。モリスはぶつぶつと何かを考えている

セル子 あの、モリス先生：

モリス セル子君。君なら知ってるんじゃないか？

ウハウハな人生、それが一体何なのかを

セル子 先生にわかんないものが私に私に解るわけ無いんでしょ

モリス あながちそうとも言えないな

私の知る限り、君は非常に単純な思考の持ち主だ

そのような思考の持ち主は意外と簡単に物事の真実にたどり着く、場合がある

セル子 そんなもんすかねえ

モリス そんなものだよ

セル子 あー、じゃあまあ、

強いて言えば、常夏のビーチで、豪華お酒と料理に囲まれて、

しかも沢山のイケメンか美人のねえちゃん達にちやほやされれば

そりやもう文句なくウハウハって言えるんじゃないつつすか

モリス …なるほど。それは確かに魅力的な話だな

では、どうすればそこにたどり着ける？

セル子 そりや金つつすよ。金さえあれば人生ウハウハ間違い無しです

モリス なるほど金か。確かに道理は通っている

セル子 いや先生？そんなに真に受けなくていいんですよ

セル子 いや、大いに参考にすべきだ

君はたかがテストの一つや二つで悪魔を呼べる程度には単純な思考をしている

それは、我々のようなレベルの高い魔法使いには到底できないことだ

セル子 さいですか：

モリス しかし、やはり得心行かないな

青い海真っ白なビーチ、酒、肉、日に焼けた美人のねえちゃん達のはじける笑顔：

私の追い求めてきた理想が、果たしてそんなものだったかと

セル子 いや…そんなもんなんすよ。きつと

教室のドアが勢い良く開き、ガラ子、勢い良く入室

845

ガラ子 あら、珍しい組み合わせ  
モリス やあ、ガラ子君、調度良い。君にとって人生とは何だい？  
ガラ子 は、いきなり何すか  
セル子 ん？もしかして君人生について考えたこと無い？  
ガラ子 あるわよ！そんなの決まってます

色んなことを学んで、良い魔法使いになって  
本当に困っているが居たら、こっそり助ける  
それが魔法使いとして生まれた私のやるべきことだと思ってます  
これで満足ですか？

850

モリス 立派だね。だが、私にとっては既に考え終わったものだ  
ガラ子 悪かったですね。参考にならなくて

でも、このくらい簡単な考え方のほうが、むしろ一周まわって良いと思いますよ  
モリス ああ、確かにその通りだ。私はそれをずっと見落としていたのかもしれない

855

沈黙

860

モリス ありがとう。実に有意義な時間だった。ではそろそろ、私は旅立つことにするよ  
ガラ子 はあ、またいきなり出張ですか：  
セル子 お土産待ってまーす  
モリス いいや。今回はもう戻らない

黒の6番、リヴィド・ノムス・サイローム

教室のドアが勢い良く開き、リゲル、勢い良く入室

865

リゲル はいはい。契約ですね  
モリス そういうことだ

リゲル では願いを

モリス ウハウハな人生。イメージは、常夏のビーチ、酒、肉

セル子 そして何より綺麗なおねえちゃんがいっぱい居たほうが良い。とにかくいっぱいだ！  
ちよつとまったア！

ガラ子 先生、なにしちゃってしてくれてるんですか？

モリス え、見てわからない？悪魔との契約だよ

ガラ子 いや、絶対ろくなことになりませんよ

モリス いいだろう。実際ろくな願いじゃないんだから

リゲル あのー代償のほうなんですけど

ガラ子 黙って

セル子 え、もしかして私の魂使うつもりだったんですか

ガラ子 貴方も黙って

モリス 代償は私の魂だ。何も心配することはない

セル子 やったー

リゲル やったー

ガラ子 私の話聞いて！

沈黙

ガラ子 真剣に。先生、正気ですか。

魂と引き換えに常夏のバカンスだなんて流石に巫山戯すぎです

だいたい、そんなの普通にお金払って行けばいいじゃないですか

モリス 青いなガラ子君。そんなんだから君はグリ君にさえ遅れを取るんだよ

ガラ子 今は関係ないですよ

モリス 関係大有りだ。君は魔法は使えるけど、魔法使いについては何もわかっていないね

ガラ子 解んなくても十分やっていきますから

モリス 確かに。君にとっては知る必要もないだろう。だが事実はそこに存在する

ガラ子 つまらない屁理屈はもういいです。私がいいたいのは：

モリス 静かにしたまえ。白の8。クレグ・ペイズ・サイローム

ガラ子、口が開かなくなる

モリス まずは復習。魔法使いは呪文を唱えなければ魔法を使えない

まあ聞き給え、未来ある魔法使いよ。これは私が君に行う最後の授業だ

さあ始めよう。 *schola de magia per molis*

沈黙。加工したようなチャイムが響く

最後の授業が始まる。皆大人しく座っている。セル子はスマホをいじっている

モリス 皆さんこんにちは

私の人生最後の授業である今回は魔法使いの終焉について学びたいと思います

ではまず、今日までの人生で魔法について学んだことを確認しましょう

…セル子君！

セル子 ういっす。魔法使いはすげえっす。だいたいなんでも出来まっす

モリス はい、ざっくりだけどすごく纏まっているね

ただ一点、魔法を使うには強い思いが必要であることを忘れてはいけないよ

セル子 ほーい

モリス 何故なら思いを力に変えることが

魔法使いの始まりであり、また終わりでもあるからね

間

モリス 魔法使いたちよ。心して聞いてくれ

私達は強く思い魔法を唱えることで、どんな願いも叶えることが出来る

ならば、私達はいったい何を願うべきなのだろう

もし、君が誰かの幸福を願うなら、魔法を使うべきではない

それは他人に自分の願いを押し付けることだから

もし、君が自分の幸福を願うなら、魔法を使うべきだろう

それを求めるのは人として当たり前のことだから  
ならば、君はいつたい何を願うべきなのだろう

あらゆる可能性がその手に有る。君はその一つを手に取り、口に  
する、決して忘れないでくれ

魔法は君の願いをかなえてくれるが、何を願えば良いのかは教えてくれない  
そして、何も願わなければ、何も叶わない。時間だけが、過ぎていく

沈黙

モリス これで私の授業は終わりだ。君達のウハウハな未来を願っている

モリス、教室から出ていこうとする、ガラ子立ち上がる

モリス わからなかねガラ子君。何も願わず時間だけが過ぎたのは私だ

私は魔法使いとして最大の喜びを手に入れようと思っていた  
が、そんなものは根本的に存在しなかったようだ

今なら解るよ。若き日に共に研鑽を積んだ魔法使いたちが  
魔法から離れていった理由が

人が魔法を使いたいと思うのは、その先の人生をウハウハにしたいからであって  
そこに魔法はいらないんだ

だが私はもう魔法のことしか考えられない。だから、何を願えば良いかわからない  
先生「魔法バカ」だったんですね

セル子 そのとおり。だがバカは男にとって褒め言葉だ

そして、そんな魔法バカな私が思いついたのがこの方法だ

セル子君の簡単な脳みそがはじき出したシンプルにイイ願いを  
代償は必要だが、思いのいらぬ悪魔との契約によって叶える

私が魔法使いらしく人生をウハウハにする唯一の方法だ

悪魔くん

リゲル 用意は出来ております。扉の向こうはもうウハウハな世界でございます

扉を指差す

モリス、扉へ向かって歩きだす

ガラ子がモリスを睨んでいる

モリス そう怒らないでくれガラ子君。私は満足しているよ

グリ君やノワ君にも伝えてくれ

ルナ・スペキュラム・モリスはウハウハな世界に行つたのだと。

…そしてこれが一人の魔法使いの最終到達点だ…さらばだ

モリス、扉から出ていく。チャイムがなる。ガラ子の口が開くようになる

ガラ子 …クソみてえだ…(物に当たる)

970

セル子 ガラ子、モリス先生はマジだった、私達には止められなかったよ  
ガラ子 私ならなんとか出来た

セル子 いや無理だ。今回を乗り切っても、ガラ子のみてない所でやるだけだよ

ガラ子 簡単に諦めないでよ！

セル子

ガラ子 それでもなんとかするのが私達魔法使いよ！

セル子 わかっとるわ！でも、今回はちげえんだよ！

ガラ子

セル子 あれはモリス先生の願いだ！ガラ子には意味わかんないんだろうけど

でもガラ子。わかれよ、魔法で人は変えられねえんだ！

魔法で変えられるのは：世界だけだよ

ガラ子 なら私は、世界を変えて人を変えるわ

セル子 ……わからず屋め

睨み合う

980

リゲル お嬢さん達

二人 なに？

リゲル モリス博士を助けたいんだろ？協力するぜ

ガラ子 まずはあいつをぶっ殺すぞ

セル子 つおーい (同意)

リゲル 待つて待つて、俺は頼まれたことしか出来ない。悪魔だから

セル子 でも絶対誘導してるよね

ガラ子 だよ

リゲル そりゃちよつとはね。ちよつとは。仕事だもん

だからさ、許してよ。代わりに先生助けるヒント教えてあげるからさ

ガラ子 それは代償？私が貴方を魔法で吹き飛ばさない代償なの？

リゲル うん、そうそう代償代償。まあヒントだけど

セル子 ヒントお？私達頭悪いからさ、答え教えてもらえなきゃわかんないんだよね

ガラ子 あー、頭悪いからうっかり呪文唱えちゃいそう

リゲル わかった。わかった、方法は教えるし、協力もする。でもその先は君達次第だ

セル子 ふーん

二人 じゃ契約成立

握手！

1000

教室のドアが勢い良く開き、ノワ、グリ、勢い良く入室

1005

ノワ 先生！

グリ 間に合ったか？！

モリスはいない



1010

ガラ子 え、なんで？

セル子 さっき私と呼んだの（スマホを見せる）

ガラ子 流石

セル子 でも、悪いけど、時間切れ…

ガラ子 でもこいつが、何とかする方法をしってる

グリ さっさと教えやがれ

ノワ さっさと教えてください

リゲル わかったわかった。みんなせっかちなあもう

リゲルの周りに円陣を組むように集まる

リゲル モリス先生の魂は、俺のつくったウハウハな世界を通り過ぎて

今頃は地獄にいるはずだ。それが契約だからね

でも、モリス先生のことだ、地獄に行っても魔法で好き放題やってるだろう

ノワ …意外と元気そうですね

グリ だが、俺たちにはまだ先生から学びたいことが沢山ある

セル子 だから8年も学校いるんだね

グリ うるさい！いまはいい！

ガラ子 続けて

リゲル じゃ問題。地獄にいて、魔法を使って、好き勝手生きる奴らを君らは何と呼ぶ？

セル子 ……………鬼？

ガラ子 悪魔ね

リゲル そう、悪魔だ

悪魔を召喚できる君達なら、モリス先生を地獄から呼び戻せるはずだ  
でも…あの呪文には魔法使いが5人要りますよ…

ガラ子 あなた、出来るのね

リゲル もちろん、僕は魔力そのものだ、呪文を唱えるくらいなら簡単さ

ガラ子 そうと決まればやるわよ。位置について！

みんな ういーす！

セル子 ちょっとまって！

ガラ子 なに？

セル子 これで呼んだモリス先生って、もう悪魔だよ。それって大丈夫なの？

リゲル 心配する必要はない

何故なら君達はルナ・スペキュラム・モリスを「知っている」からね  
さあ始めよう。君達は僕の分まで願ってくれ

ガラ子 拡散し

セル子 浸透し

ノワ 比較し

グリ 改善する

リゲル 天に堕ち、虚を満たし、無を集め、光と競う星  
ノワ ルーラ・イントール・グリューマ

1050

1045

1040

1035

1030

1025

1020

1015

1055

グリ ノイト・エルト・インサイム  
ガラ子 エリス・デルビス・オム・ナーヴァ・エンクラグ  
セル子 ネルレック  
ノワ リオン  
グリ スライグ  
リゲル レグラ。君が憎む簡単な世界よ

舞台、一端明るくなり、また闇に包まれる

闇の中、教室のドアが勢い良く開き、モリス、勢い良く入室

モリス、手持ちの明かりを付ける

1060

モリス 初めまして。私は悪魔だ。百年の孤独のモリスと呼んでくたまえれ

舞台。明るくなる

1065

モリス 君達か…何故私を呼べたのかわからないが。私はまた失敗したのだな。  
ガラ子 先生。どうしてあんなに自分の願いにこだわったんですか  
モリス それは君は一番良くわかるはずだ。考えてくれ。私は還る  
ガラ子 溶けて散れ、ノイト・アルクレック・オッド・エンクレグ

1070

モリス、静かに崩れる

1075

ガラ子 先生…私達のこと嫌いですか？  
モリス ……………決まっている。大好きさ  
ノワ じゃあ、何で  
モリス もう、十分なんだ  
グリ いや、俺たちはまだ  
モリス 十分なんだ。君達はもう一人でやっていける  
…ガラ子。君を除いてね

1080

ガラ子 違います。私は  
モリス 私は一番魔法が使えるから一番大丈夫。そう言いたいのだろう  
君の考えていることは手に取るようにわかる

1085

グリ君。ノワ君。下がり給え。君達は大丈夫だ。  
何れ君達はもっと大人になり、思いは枯れて、やがて魔法を使えなくなるだろう  
だがそれでもやっていけるさ。それが人生だ  
だが、やっかいなのはこういう、いつまでも魔法を使えそうな奴だ  
ガラ子、君はまだ心のどこかで魔法でなんでも解決できると思ってるだろう

1090

ガラ子 そんなことありませんよ  
モリス では何故、私を呼んだ  
ガラ子 呼べたからです  
モリス それは本当に正しいのか  
ガラ子 それを今から正しくするんですよ

1095

モリス どうなれば正しい  
ガラ子 貴方をここにとどまらせる  
モリス 意味はない、私は悪魔だ  
ガラ子 どうにかします

モリス どうやって？

ガラ子 気合です。私は諦めませんから、それが私の魔法です。

モリス 違う、それはただの暴力だ

ガラ子

モリス 諦めないことは暴力だ。他者に対する。そして自分の人生に対するな

折り合いを付けろ。ガラ子

でないと君はいつか本当に大事なものを見失う

ガラ子 なら、私達はどうして魔法使いとして生まれてきたんですか？！

セル子 違うよ！

沈黙

セル子 違うよ。こんなケンカをするためにモリス先生を呼んだんじゃない

：どうでもいいじゃん。魔法とか、人生とか

何でみんなこう、不器用なのかな：

モリス先生。大人ならわかってやってください

ガラ子は単純にこの教室の誰かとお別れになるのが嫌なだけなんです。きっと  
でもきつとバカだから、こんな言い方しかできないんす

許してやってください

モリス

セル子 でも、わかってください。先生がボンクラ魔法使いだろうが悪魔だろうが

私もノワちゃんもグリさんも、そしてガラ子も、先生のことめっちゃ好きなんで  
いなくなるとキツイっす。やっぱ先生は先生なんっすよ

ルナ・スペキュラム・モリスは私達の先生なんっす

こんな恥ずかしいこと、言わないとわかんないかな：

モリス、倒れる

1125

セル子 え？嬉しすぎて死んじゃいました？

モリス そうかもしれない。まるで、悪魔になって解消された、動悸息切れ肩こり腰痛が

同時にもどってきたかのようだ

リゲル ハッハッハッハ、流石俺のマスターだ。土壇場で正しい選択をしたね

ノワ どういうことですか？

リゲル 名前だ。悪魔の本当の名前を彼女は唱えた

そうなたらもう悪魔は絶対に逆らえないさ

ただそれだけじゃない、言葉そのものも、刺さったんだ。まさに原初の魔法だね

リゲル、モリスに近づき

リゲル 悪魔ルナ・スペキュラム・モリスよ

今、君の存在は主人の命により、「先生」と固定された

「先生」の定義は分らないが、彼女にとつてはただの人間とかわらないようだな  
いやあ、君はやはりどこまでも愚かで運のない奴だ。せつかく悪魔になれたのにな  
モリス いや、悪魔くん。確かに私は愚かだが、幸運ではあるようだ

「純粹に彼らの先生であること」これが私の第二の人生に課せられた使命ならば  
これ以上ウハウハなことはあるまい

グリ え、じゃあそれって

ノワ 前と何も変わらないじゃないっすか

セル子 やったー？

グリ やったー！

ノワ やったー！

グリ、ノワ、モリスの周りで喜ぶ

セル子 え？これで良かったのかな

リゲル 実際モリス先生は救われたようだ。それを良しとすれば良いんじゃないか

セル子 へえ、もうどうしようもないと思ったけど。意外とポロッとうまくいくもんだ  
リゲル まあ人生なんてそんなものさ。君達にとつてはね

グリ おい、セル子！モリス先生保健室連れてくから手伝ってくれ。意外と瀕死だ  
セル子 え？あ、うん！

セル子、グリ、ノワ、モリス、慌ただしく出て行く

ガラ子、リゲルだけが残る

沈黙

ガラ子 あーあ、莫迦みたいじゃん、私

リゲル そうだね。今回の、君は何にもできなかった

ガラ子 五月蠅いわね……まあ、でも、そうよ。悔しいけどね

リゲル 悔しい、ねえ。はは、まさか君の口からそんな言葉が出るとは  
ガラ子 別に、本当はいつも悔しいって思ってたばっか

この間は、セル子には魔法拒否られるし、

ノワちゃんとはあれからちよと気まずいし

グリ先輩には負けるし、今日はモリス先生に怒られちゃうし  
最近上手く行かないのよ……ま、全部あんたが来てからだけだね

リゲル あはは、ごめんごめん、あるよねーそういうこと

ガラ子 ま、関係ないか。遅かれ早かれ、いつかは無理なこともあるってわかってたわよ

リゲル ……

ガラ子 でもこの先もずっとこうなのかなって思うとゾッとするわ

リゲル そうなんだ

ガラ子 そうよ。だって、何時も、自分がなんとかしなきゃって思っ

1180

リゲル 失敗し続けるの、辛くない？  
ハハハ、確かにそのとおりだ。  
ガラ子 だから、私、なんというか、ちょっと未来が怖いみたい…  
リゲル その推測はたぶん正しいよ

ガラ子 これからも君はずっと、魔法で何かを解決しようとして  
そして、割りとよく失敗するだろう。君がどれだけ魔法を上手く使ってもね  
…あなたに何が解かるのよ。それでも私一生懸命やってるんだから

…実際、今までも上手くやってきたし。

1185

リゲル ガラ子ちゃん。どんなに君が強くても、君を置いて世界は変わっていくんだ  
それが君の望まない方向だとしてもね

ガラ子 ヘー、だったら世界なんて今日で終わっちゃえばいいのに

リゲル ハハハ、君はなんて傲慢なんだ  
ガラ子 そうよね。傲慢よね。

1190

だって今日まで私は「良い魔法使いになって世界を救う」なんてこと思ってた  
莫迦みたい。結局魔法なんて意味なくて、私は誰も救えないのにね

だから、そんな世界、もう見たくないの

リゲル それが君の願いかい

ガラ子 そうかもしれない

1195

ちよつと間

リゲル 良いよ。君がそれを望むなら、世界を壊すなんて簡単だ

ガラ子 違うわ。本気じゃない

リゲル 僕にはそうは聞こえなかったけど

ガラ子 だめ。だめなのよ。そんなの

リゲル どうして？君は最高の魔法使いだ

世界の終わりを決める権利くらい、あるんじゃないか？

ガラ子 馬鹿言わないで、私は普通の一人の人間よ。二階堂ガラ子っていう一人の人間

だから、世界を終わらせることなんてできない

リゲル それはちよつと都合が良すぎるんじゃない

だって普通の女の子は魔法でなんでも解決したりしない

みんな沢山のことを諦めて我慢してる。君はどうだい？

ガラ子 黙りなさい

溶けて散れ、ノイト・アルクレック・オッド・エンクラグ！

1210

何も起こらない

リゲル どうしたの？なんともないけど

ガラ子 嘘でしょ

リゲル かわいいそうに。もう、思いも枯れかかっているんだね

ガラ子 関係ないわ。見てなさい

鉄の楔。折れた剣。腐敗し流れ落ちる黒い油

1220

青いインクに溶かして刻め赤熱するグリフ  
我が目に、爪に、喉に、骨に、そして虚ろなる頭蓋に  
ノイト・エッグス・フレス・オッド・エンクラグ

二階堂ガラ子は魔法を望み、魔法は強い望みを望む  
ならば私は望みを望み、望みを生む望みを得る

故に私に望めぬことはない。故に私に出来ない魔法はない

リゲル それは、人の心を縛る呪いかい？

ガラ子 そうよ。これが私の最初の魔法。

私はどんな願いも叶えてみせる。そう、心に決めてるの  
だから、私の心は絶対に折れないのよ！

リゲル うん。だから君は僕を否定することも絶対にできない

ガラ子 …

リゲル どんな願いが叶える君が、どうして自分の願いを否定できる？

いけないって解っていても、それは君の本当の気持ちの一つなんだけ  
……大切にしなきゃ

空気が振動し始める

リゲル 始まったよ。終わりが

じゃあね。ガラ子ちゃん。僕はいまから大切な仕事に行かなきゃいけない

不器用で、ひとりぼっちな女の子の、誰にも言えない願いを、叶える仕事にね  
バイバイ、また会おう

1240

リゲル、教室から出ていく。教室が闇に包まれていく

ガラ子 …みんな…セル子…ごめん…

魔法は簡単でも、人生は難しくって、私その難しさに

1245

全暗。無音

ガラ子 耐えられないみたい

1250

第三話 END

突然、教室のドアが勢い良く開き、モリス、勢い良く入室。息の荒いまま

1255

モリス ガラ子君。それでも人生はまだまだ捨てたものじゃないぞ！

鏡の月。傾き六十度の銀河と揺れる霞草

無限に広がる黒き空に、生まれ出づる星を想う

白銀の333番

ドロウ・ラフィック・レイズ・エルドキス・シビュラサイローム！  
闇を払い、世界よ輝け！

1260

教室が一気に明るくなり、いつもに戻る  
教室のドアが勢い良く開き、グリ、ノワ、セル子、勢い良く入室

セル子 ガラ子、大変だ。なんかいきなり隕石が落ちてきて地球が終わるっぽいぞ  
ガラ子 うん、知ってる。でも、今回だけは……  
もう、無理だよ

## 4 ――第4話――「世界を救うなんて簡単だ。」

モリス いいや。諦めるのはまだ早いぞ。ガラ子くん  
グリ そうだぜ。だってここにいる俺たちは魔法使いだ

ノワ 魔法使いと気合があるかぎり、出来ないことなんて無いんですよ  
あなたが教えてくれたことです

ガラ子 そうね。ノワちゃん。でも、私にはもう気合すら残ってないの  
ノワ そうですか。じゃあガラ子先輩の分まで私が気合をだすとしましよう  
でも、あなた、すぐ疲れちゃうんでしょ

ノワ 大丈夫です。鍛えたので

ガラ子 莫迦みたい

ノワ はい。私「魔法バカ」ですから

グリ おいおい、ノワ、お前ばかりカッコつけてんじゃねえよ

ノワ 実際貴方よりも格好いいので

グリ 何を抜かすか。ガラ子、お前はそこで黙ってみとけ

そして、俺の本当の力を見抜き。俺を尊敬しろ

なんなら、惚れてくれたってかまわない

ガラ子 絶対無理

グリ じゃあ、お前が無理だといったことをやってみせるだけだ

モリス グリ君、変な意地を貼ると、失敗した時に恥ずかしいよ

グリ 縁起でも無いこと言わないでくださいよ！先生！

ミスったら終わりなんすよ今回は！

モリス ああ、だが残念なことに君一人がミスの可能性もあるのだ

魔力の少ないグリくんよ

グリ 大丈夫っすよ。鍛えたんで（腹をたたく）

モリス あーあ、いったいどうして私の弟子達は、

こんなにもテキストな連中ばかりなんだろうね。君知ってる？

ガラ子 先生の影響じゃないっすか。論理的に考えて

モリス なるほどね。弟子というのは悪いところまで受け継いでしまうものなのか。

ガラ子君。覚えておきたまえ、世界から自分が消えようとするのと、

世界を消してしまおうとすることは、本質的には同じなんだ

ガラ子 どういうことですか

モリス おっと、つい勢いでいってしまったんだが。裏目にでたね

ただ、そんな気がするのだよ

1305

ガラ子 先生も大概テキトーですよ  
ノワ 未来が無いんですよ  
ガ・モ ん？

ノワ 世界から消えるの、世界を消すのも、どちらも未来が無いんです。  
そういう点で共通性があるってことなんじゃないですか？

グリ そうか？俺は後者の方がより愛があるように感じるな

ノワ 先輩が愛とか言わないでください。気持ち悪いんですよ

グリ そうか、だって死ぬ時は皆一緒ってことだろ

ノワ んー、やっぱキモいつす。てか、皆さん！そろそろ時間がないですよ

速く何とか隕石止めないと、本当に皆まとめてお陀仏なんですよ

気合が有っても、時間がなければ何もできないんですからね！

グ・モ はあゝ：

ノワ なんですか？

モリス ねえグリ君。最後にもうちょっと何か良いこと言っておきたかったよね

グリ そうっすね。最後っすからねー

ノワ 最後じゃないです。ここで世界を救って

明日からもずっとここで、こうやってみんなでガヤガヤするんですよ

グリ ずっとかー、俺、次ダブッたら退学だからな

モリス 未来がないのは君も一緒なんだね

グリ あー絶望。世界壊しちゃいそう…（ガラ子を見る）

ガラ子 茶化さないでくださいよ！

グリ ヘッ！

モリス 十分だね。そろそろ真剣に始めようか

ノ・グ ういーす

モリス 作戦は簡単。隕石を限界までひきつけて、最大魔力で吹き飛ばす

より勢いが有る方が勝つ。それだけだ。シンプル！

ノ・グ ういーす！

モリス さあ、みんな屋上へ行こう、私も久々にキレてしまったよ

モリス、グリ、ノワ、教室から出ていこうとする

モリス ガラ子君

ガラ子 はい

モリス 今更、私達は、君に何が有ったのか、

どうして世界が滅ぶことになったのか、そんなことは聞かないよ

グリ 聞かねーよ

ノワ 聞きませんよ

モリス でも、いい機会だからこれだけは言っておく。

君が頑張れなくなったときには、こうして誰かが頑張ってくれるんだ

だから、君が頑張りを続ける必要なんてないんだ

これはいつもってわけじゃないけど、こうあるべきだ

儘ならないこの世界で生きるってのはそういうことだと、私は思うんだよね



ノワ それにここには誰一人、困っている貴方をほって置くような人はいませんよ  
グリ それが魔法使いのサガだからな  
見ていてくれ、ガラ子、世界を救うなんて  
三人 簡単だ！

モリス、グリ、ノワ、教室から勢い良く出ていく  
ガラ子とセル子だけが残る

教室。沈黙

セル子 行かなくていいの？

ガラ子 セル子こそ、行かなくていいの？

セル子 私がいつてどうするの

ガラ子 そうね。でも、それは私も同じ

セル子 何で？ガラ子が一番上手く魔法が使えるんじゃないの

ガラ子 …魔法、使えなくなっちゃったみたい

セル子 何で？

ガラ子 わかんない。でもとにかく、イメージできないの、魔法使っている自分が

セル子 な・ん・で！

ガラ子 だから、わかんないの！

セル子 わかんないじゃないよ、考えてよ

いつも頭使えっっていつてるの自分じゃん

ガラ子 そうだけど…

考える間

ガラ子 たぶん、怖いよ。私、今、魔法を使うのがすごく怖い

セル子 ふーん、詳しく

ガラ子 （ため息）…私ね、ずっと無理して魔法使ってたの

セル子 うん、知ってる

ガラ子 でも、それってね。やっちゃいけないことだったみたい

私、だんだん自分の気持ちがわからなくなっていって、気付いたら

世界なんて終わっちゃえって言ってた…だからそんな自分が信用できないの

セル子 違うでしょ、誤魔化さないでよ

ガラ子 何を

セル子 自分の気持ちなんて、わかんなくなるわけじゃないじゃん、自分だもん

ガラ子 じゃあ、何で、こんなことになっちゃたのよ

セル子 そりゃ、ガラ子がそう望んだからでしょ

ガラ子 …そうね。そうよ。でも、だからもう私はもうダメなのよ、わかって！

セル子 わっかんないよ！ちゃんと言葉にしなよ

ガラ子 だって、今だって、皆に無理しなくて良いつていわれて、

私それで満足しちゃったの。だから、今世界が終わるなら、本望なのよ

沈黙

ガラ子 だから、私はもう魔法を使っちゃいけないの。世界を壊しちゃうから  
それにもし、世界が救われても、もう二度と魔法は使わない  
大丈夫、きっと魔法なんかなくても、私は上手くやっていけるから  
セル子 それでいいの？ガラ子

沈黙

ガラ子 莫迦！良いわけ無いでしょ……！

自分でなんとかしたいわよ

私、今、今までで一番魔法を使いたいって思ってる……！

間

ガラ子 でも、本当にすごく怖いの！

セル子 (優しいため息)

セル子、ガラ子の肩を掴み、ちゃんと顔を見る

セル子 ガラ子。私、魔法つかえないからさ。いつも考えてるんだけど  
やっぱ、やれることはやらなきゃダメだよ。怖くても辛くても  
じゃないと絶対後悔する

ガラ子 でも、セル子。貴方にはわからないかもしれないけど  
やって後悔することの方がすごく辛いものよ

セル子 うん、私にはわかんない。でも、ガラ子はやらなきゃダメだ

じゃないとガラ子はずっと前に進めなくなる

ガラ子 それでも、怖い

どんなに上手くやっても、いつも思いもしなかったことに躓いてダメになる

そしてそれで傷つくのは私だけじゃない

セル子 でもさ、それがガラ子だよ

ガラ子 ひどい

セル子 ひどいけど、本当のこと。でさ、そんなに嫌ならさ

セル子、手を差し伸べて

セル子 ほら一緒に来。ま、今更だけどね。

ガラ子 ……

セル子 文句ある？

ガラ子 ないわよ！（少し笑顔）

ガラ子、差し出された手を握り返し立ち上がる

1430

ガラ子 ふう、ごめんね。ちょっと、冷静さを無くしてた見たい  
セル子 ー？（不満そう）

ガラ子 何？

セル子 ごめんね。じゃないでしょう

ガラ子 ごめんなさい？

セル子 バカ、こういうときは、ありがとうっていうの

ガラ子 うん、ありがと…

セル子 まったくガラ子はバカだよー本当に

魔法は使えるのにさ。こういうところだよ

ガラ子 （ちよつと、にやけてる）

セル子 なにニやけてんの？反省してる

ガラ子 いや、不思議ね。セル子と話してたら、

さっきまで頭の中ぐちゃぐちゃだったのが、どっか行っちゃったみたい

セル子 ああ、別に普通じゃない

ガラ子 そう、なんか魔法みたい

セル子 はっ、これが魔法なら。これ以上簡単なものはないな

だって私にも使えるもん

ガラ子 そうね（僅かに笑って）

二人、服を整える

1450

ガラ子 よし、じゃ、そろそろ派手にブチかましますか

セル子 ああ、いい加減私もイライラしてきたぞ

二人で並んでガラ悪く佇む

1455

ガラ子 悪魔！

セル子 リゲル！

ガラ子 悪魔かなんだか知らないけれど、お前は少しやりすぎた

セル子 テスト、先輩、人生、これらを引っ掻き回した件はまだ許す

ガラ子 でも、世界を終わらせるのは許さない

セル子 人はどんなに間違っても、それでも、明日を生きなきゃいけないんだ

ガラ子 探せ！セル子！

ガラ子、セル子の方へ手を伸ばす。魔力の籠った手である

1465

ガラ子 簡易共鳴魔術！クレグ・プレフ・エト・トゥウィンクレス

セル子、ガラ子の手から魔力を受け取る

1470

セル子 ネルレック！

1475

ガラ子 さーで一応私はリゲルのマスターだから…ほら、見つけた！  
どこ？  
セル子 あー、隕石の中  
ガラ子 厄介ね。でも行くしかないわ  
セル子 おう！  
ガラ子 フッフ、まってなさい、この私、二階堂ガラ子と…  
セル子 霧島セル子を怒らせたらタダじゃ済まない！  
二人 そんな簡単なことを今からお前に教えてやる！

1480

二人、すごい勢いで教室を出て行く。暗転  
明転。少し色味が違う以外はいつもの教室  
割れたチャイムの音、リゲルが鼻歌を歌いながら入ってくる  
ランタンを傍らに、イスに腰掛け、  
ウハウハなお菓子を食べ始める（または飲み物）  
楽しいけど少し憂鬱そうにくつろいでいる  
教室のドアがすごい勢いで開き、ガラ子、セル子、すごい勢いで入室

1485

リゲル やあ、待ちくたびれたよ

1490

ガラ子 隕石の中身がいつもの教室だなんて、随分良い趣味してるじゃない  
リゲル だろう。実はこの教室、俺にとっても特別なものなんだよね  
セル子 リゲル、君もしかして、この教室の生徒だったの？  
リゲル そうさ、もうずっとずっと昔。モリス先生よりももっと昔  
俺は魔法使いで、人間だった

1495

ガラ子 そしてどうせ貴方も、自分では何も願えなくなつて、悪魔に頼ったんでしょ  
リゲル フツ、違うよ。僕は自分で望んで悪魔になったんだ  
ガラ子 は？  
リゲル わからない？魔法使いだった俺は悪魔に成りたいと願ったのさ

沈黙

1500

リゲル ガラ子ちゃん。俺はね、君なんかよりもずっとよく出来た魔法使いだった  
ずっとね。友達の面倒もちゃんと見てたし、  
先輩や後輩に遅れをとるなんてありえない。先生に怒られたことも一度もないよ  
普く呪文の知恵と無尽蔵に沸き立つ魔力。俺に出来ないことは無かった  
皆が俺に頼った。俺も信じた。俺の力が、この魔力が、  
全ての…全ての人を…（物に当たる）

1505

だがそんな俺も全ての希望と絶望をこの身に受け魂を引き裂かれた！  
何故だ！

1510

ガラ子 人間だからよ。魔法使いも心はタダの人間。だから全部の願いなんて聞けないの  
そんなの私でも知ってた  
リゲル わかつてるじゃないか。そう、人間は弱い、弱くて、弱くて、嫌になる！  
セル子 でも、その弱さは皆にあって、そんなの誰だって…

1515

リゲル 何も出来ない君に何が解かる。解かるわけないだろ  
全ての可能性を手にながら、

それがボロボロと大量に指の間からこぼれていく感触を、わかるか  
その点、悪魔って良い、めっちゃ良い、何も考えなくていいから  
でもちゃんと魔法使いみたいに頼られる

ガラ子 呪いね。貴方そのものがこの世界に対する呪い。

リゲル 違う。僕は光だ。希望の光だ

僕なら叶えられる。君達の願うことの出来ない、

なのに、魂をかけたいとまで思う一番大切な願い

そして、手伝える、未来をちよつと犠牲にした。くだらない悪い願い

人は代償を払うことで、自分の願いの大切さを理解し叶える

それがこの世界の本来のルールなんだよ

ガラ子 そのルールを打ち破るのが魔法よ。貴方のちっぽけな世界に私達を巻き込まないで

セル子 いや、一理ある

ガラ子 セル子

セル子 これはほんとだ。ガラ子。

人が何かを成し遂げるには、多かれ少なかれ何かを犠牲にするよ。妥協がいるんだ  
でもそれは魔法も同じ、ガラ子達は、思いを犠牲にして、魔法を唱えてる

リゲル おどろいた。セル子ちゃん、ガラ子ちゃんをよく見てるんだね

セル子 そりゃそうだよ。ちっちゃい頃からずっとみてる

強情で、欲張りで、誰よりも頑張ってるのに

そんなところは一切見せないバカな強がり

だから私、本当に怒ってる。真っ直ぐさだけが取り柄のガラ子を、

騙して傷つけた君を絶対に許さない

リゲル 騙してなんていない。本当のことを行っただけだ。

そして、勝手に傷ついただけ。

魔法使ってそういうものなんだ。

誰にも傷つけられないかわりに、勝手に一人で傷つく

セル子 でも、そんなやつ魔法使いじゃなくてもいいじゃない

リゲル そうだよ。でもだから、この世界は救われないんだ

さあ、本題に入ろう。ガラ子ちゃんセル子ちゃん、

僕と一緒に世界を救わない？いや、それは言い過ぎかな

じゃあ、僕と一緒に世界を妥協しようよ

ガラ子 妥協？なにそれ？

リゲル どうでもいいものを犠牲にして、本当に大切なものをとるんだよ

セル子 世界にどうでもいいものなんて、ない

リゲル ある。大切なのは今日までで、どうでも良いのは明日からだ

ガラ子ちゃん。今の世界の大切さ、君なら解かるんじゃないか、

その大切を守ろうとは思わないかい

ガラ子 フフ

リゲル フフ

ガラ子 莫迦ね。確かに今日までの私の人生は大切よ。

1555

でも、これから先をもっと大切なの。

人はどんなに失敗しても前に進まなきゃいけないのよ

リゲル

それは只の言葉だ、しかも君のじゃない。それに、

君はそれで良いかもしれないけど。他の人はどうするの？

ノワちゃんは、グリ君はモリス先生は？セル子ちゃんは？

みんな君の知らないところで勝手に傷ついていくんだよ。

ガラ子

知らない。でも、力になれる限り、私は力になろうとおもう

リゲル

それって、本質的じゃないよ。僕は世界を救うってのはこういうことだと

思うんだ。現在進行系で救われない連中が生きるこの世界を救うには、

その世界の動きを止めるしかない

ガラ子

そんなに焦る必要はあるのかしら、もっとテキトーでいいんじゃない？

リゲル

ダメなんだ！

沈黙

リゲル

君はいつかこの世界を、必ず壊す。俺は確信しているんだ

いつか君は、今は想像だにしないような、残酷な世界の真実に気づき

そして、君の思いは張り裂ける

君が壊れるか世界が壊れるかの二つに一つだ

君はそのどちらだって願ったりはしないだろう

だから俺はこの世界を壊す

わからないかな。僕、基本的には魔法使えないからさ。いつも考えてるんだけど

やっぱり、やれることはやっておくべきなんだよ。後悔しないようにね

セル子

リゲル、君は：

ガラ子

わかった。私は絶対に世界に壊されたりしたい

リゲル

悪いけど俺はそうは思えない

君が本当に世界に壊されないというのなら

それを俺に証明してくれ。魔法使いとして！

間

ガラ子

いいわよ

セル子

ガラ子：

ガラ子

大丈夫。私を信じて。これは私がやらなきゃいけないことみたい

セル子

わかったよ。まってるよ

リゲル

君を試すため、俺の最後の魔法を使おう

さあ、未来の困難さを知りながら、それでも未来が欲しいというのなら

俺を超えてみせろ、魔法使い

ガラ子

もちろんよ！

リゲル

ステラレジオニス式契約制御魔術！

ザイラス・魔界との契約破棄、アルベム・我が存在が代償

リアトラ・存在を移行、レグラ・魂の焼却開始

1595

1590

1585

1580

1575

1570

1565

1560

1600

続いて、簡易詠唱レリック・ニーク・エト・トッド、時を分ける  
さあ、好きに呪文を唱えるが良し

ガラ子 駆けるスカーレット。あざ笑うカーマイン。焼け付くルージュ。

奪い去るクレナイ。両断するシナバー。

猛り狂うクリムゾンと慟哭するヴァーミリオン！

守り祈り示し正し生まれ巡り切り裂き吹き出し流れ落ち染める赤を支配する。

三重詠唱

ドロウ・エトヴァス・ロル・レジム・エトニクス

ドナ・イクス・デル・エンファイド・

ドナ・リオット・シユラク・トリスエクスエンクラグ

心を燃やし、力を吐き出せ、星を砕き、世界を救う、言の葉よ！

間

リゲル

ソルマグニフィカ式召喚術リヴィド・ノムス・レグラ！闇に溶けよ  
魂を汚すネビュラ、光を喰らうジュピター、音を断裁するイトカワ

そしてルナスベキユラム式単独共鳴魔術！

屈折し、仮定し

反射し、推量し

交錯し、演算し

収束し、証明し

干渉する、結実する

百光のルクスと漆黒のグリフ

ドロウ・エト・フォド・リムダ

コルナ・ガ・レプス・エト・ダル

ノド・ガムラ・グノス・アグニス・レクスレグラ

日が沈み、夜を穿ち、

君の無くした言葉が、我が精錬なる光が、

真理を開き、世界を閉ざす

教室が暗くなっていく、ガラ子膝を付き、セル子が駆け寄る

リゲル

残念。君は頑張ったけど。それでもまだまだ世界には届かない  
安心してくれ。きっと今日で世界が終わるのも、悪くないよ

暗転

ガラ子

ええ？ええ？嘘でしょ？全力だったのに

セル子

え？もう無理もう無理、これ以上はできない

ガラ子

ガラ子、やっぱりこうなったか

セル子

やっぱり？ひどくない

セル子

でも、ガラ子気合入れると、ろくなことないよね。最近

1640

ガラ子 そんな！じゃあ、いったいどうするのよこれ！  
セル子 このままじゃ世界が終わっちゃうじゃない  
ガラ子 セル子も考えて

沈黙

1645

セル子 ガラ子  
ガラ子 セル子

一緒に来て

セル子 もちのロン！

ガラ子 セル子

セル子 ん？

ガラ子 そばに居てくれてありがとう

セル子 それは、お互い様！

1655

一気に、明るくなる。手を繋いだ二人が堂々と立っている

リゲル なんだと

二人 魔界へと誘うリゲル！

ガラ子 よく聞け

セル子 確かに

ガラ子 人生は

セル子 世界は

二人 難しい

ガラ子 無茶をすることもある

セル子 諦めることもある

ガラ子 傷つき

セル子 打ち捨てられ

ガラ子 世界を憎むことだってある

セル子 でも、それでも人は生きて行けるんだ

リゲル 何故だ何故、まだ立ち向かえる。勝てると思っているのか、この俺に世界に

二人 関係ない！

セル子 私はそれでも進む。この先にどんな困難が、絶望が待っていても

ガラ子 私は一人じゃない、たったそれだけの事が、どんな魔法よりも強く私を支えるから

二人 教えてやる一人ぼっちの悪魔

世界を救うのはいつだって

ガラ子 魔法使いだ

セル子 人間だ

二人 違う！私達だ！

ルナスペキュラム式共鳴魔術・

改！！！！！！

1680

1675

1670

1665

1660



1685

ガラ子 赤い炎、見つめ、解き明かし、振るい裁くはガランス！  
セル子 青い空、耳を済まし、隠れ、紡ぎ笑うはセルリアン！

ガラ子 響け 私の呪文 頼りない君が 世界に 負けないように  
セル子 届け この言葉 強がりな君が 自分に負けないように

ガラ子 詠う みんなの世界が 思いが いつまでもいつまでも  
セル子 謳う 世界が あなたの思いが いつまでも

ガラ子 消えて しまわないように  
セル子 なくなってしまうないように

ガラ子 ドロウ エト ウォーリン ジーテク レドロ  
セル子 世界よ どうか 今だけは 簡単に そう祈ります

ガラ子 魔法なんていない  
セル子 二人繋いだこの手が  
二人 一番大切な魔法なんだ！

ガラ子 エクス！…エンクラグ！  
セル子 アルス！ …ネルレック！

空気が震える

リゲル ああ、魔法が隕石が僕が、消えていく  
僕は負けたんだね。君達に、若き魔法使いたちよ  
悔しいが認めよう。世界は救われた！

二人 よっしゃー！（適当に喜ぶ）  
リゲル さてと

リゲル二人をソファに押し込む

ガラ子 なにすんの  
セル子 八つ当たり？

リゲル いや、君達は帰るんだ。いつもの教室にね  
ガラ子 待って、リゲル、あなたも、もしかして

リゲルが指で魔法かけると、二人が眠る

リゲル そうだよ。俺は悪魔。君達が乗り越えた悪い魔法さ  
ガラ子ちゃん、セル子ちゃんこれが俺の本当に最後の魔法だ

1760

1755

1750

1745

1740

1735

1730

1725

宣言通り、君達は僕の生きれなかった未来を生きたまえ

リゲル、扉をあけて出ていく。その直前に、教室に魔法を掛ける

リゲル  
さようなら

いつもの教室にもどる

静寂

グリとモリスが笑いながら入ってくる

モリス いやー決まったねグリ君。私達の黄金の666番

グリ いやー決まりましたね先生。マジで隕石なんて木っ端微塵でしたよ  
ノワ いやー私、絶対に違うと思うんですけど

眠っている、ガラ子とセル子に気づく。モリス、しーつとする

モリス 起こしちゃ悪いね。グリ君、打ち上げに行こう

グリ ういっすういっす

ノワだけが残る。ガラ子は起きる

ガラ子 騒がしいわね…あ、ノワちゃん

ノワ 先輩、いったいどうやって世界を救ったんですか？

セル子の顔を見て、微笑んで

ガラ子  
簡単な魔法よ

簡単な魔法・完